

全世代型社会保障に関する総理と現場との意見交換会

議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和元年11月20日（水）17:15～18:16
2. 場所：官邸4階大会議室
3. 出席者：

安倍 晋三	内閣総理大臣
西村 康稔	全世代型社会保障改革担当大臣
加藤 勝信	厚生労働大臣
梶山 弘志	経済産業大臣
佐藤 和子	小売企業勤務
清水 和夫	機械メーカー勤務
千原 光雄	無職
金子 優子	薬局勤務
宮下 有希	病院勤務
平川 佳代子	IT関連企業勤務
吉田 恵美子	運輸会社勤務
福浪 珠江	菓子製造会社勤務
君島 桜	喫茶店勤務
門田 陽志	大学在学中
市川 綾音	通信制高校在学中

(議事次第)

1. 開会
 2. 内閣総理大臣挨拶
 3. 参加者からの発言と意見交換
 4. 閉会
-

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 それでは、ただいまから社会保障改革に関する安倍総理と皆様方との意見交換会を開催したいと思います。

本日は、お忙しいところをお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

全世代型社会保障改革担当大臣をしております西村康稔です。今日は司会役を務めさせ

ていただきますので、よろしく願いいたします。

今回、幅広い世代の皆様方にお集まりをいただきました。幅広い世代の皆様から御意見をいただくということでございます。どうぞ忌憚のない御意見をお聞かせいただければというように思っております。

政府側からは、加藤厚生労働大臣、梶山経済産業大臣にも御出席をいただいております。

それでは、初めに、安倍総理大臣から御挨拶をいただければと思います。

○安倍内閣総理大臣 皆さん、こんばんは。安倍晋三です。

今日は、それぞれ大変お忙しい中、官邸にようこそお越しいただきました。

今、政府においては、西村大臣から冒頭お話をさせていただきましたように、社会保障制度改革、年金、医療、介護、そして働き方を併せた社会保障制度改革について議論を行っています。

今まで、社会保障制度改革といえば年金、医療、介護であったわけですが、今回は働き方を含めた改革を行っていく。それはつまり人生100年時代を踏まえて、どういう働き方をしながら、その中で様々なステージがあるのだらうと思います。その中で、病気になったときはどういう働き方をするか。介護が必要なとき、あるいは結婚、出産、それぞれのステージでどういう働き方ができるか、それと年金との関わり合いも出てくるのだらうと、こう思うわけでございまして、今回は年金、医療、介護、そして働き方も含めた改革を進めていく。そして人生100年時代の中において、お年寄りだけではなくて子育て世代も、少しリタイアした方も、あるいは未来を担う世代の人たちも、全ての人たちにとって大切な、を支えていく社会保障、つまり全世代型の社会保障に変えていくという大きな改革を進めていきたいと思っております。

その中で、今日は様々なバックグラウンドを持った方々にお越しをいただいたわけございまして、なかなかこういう場所で話すというのは話しにくいと、あまり経験したことないと思いますが、なるべくこの周りの景色は忘れてごつくばらんに御意見をいただきたいと、このように思いますのでよろしく願いいたします。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 それでは、早速、御参加の皆様方からお話を伺えればというように思います。

それぞれの皆様方、お一人お一人からお話しいただきたいと思いますが、お一人2分ぐらいでお話をいただければありがたいと思います。

まず、3名の方からお話をいただきます。トップバッターで申しわけないのですけれども、佐藤さんから、この時計回りの反対でお一人ずつ。

佐藤さん、よろしく願いいたします。

○佐藤氏 大分県の中津市から来ました佐藤和子、72歳です。

スーパーの総菜工場で働いています。主人が20年前、53歳のときに食道がんになり、経営していた楽器店を続けるのが無理になり、居酒屋一本に絞りました。15年経営していた居酒屋も、主人の体調が悪くなり閉店して、今、勤めているスーパーの社長に話して長い

時間のシフトにしてもらいました。

2年前からパートリーダーを任せられ、頑張っています。14人で4店舗分の料理を朝5時からつくっています。配送の時間が決まっているので、それに間に合わせるのが大変です。特に煮物はおふくろの味を出すのに頑張ります。かしわ御飯は絶品です。職場にはろうあ者の人が2人いるので、手話と交えながら口パクで大きな声で話すのが少し大変です。でも、昔から料理が好きなのと、居酒屋のスキルを生かして創作料理も頑張っています。お弁当の評判がよくて、たくさんの注文をいただきます。うちのスタッフは60代が6名、70代が6名と社員2名です。スタッフは年齢が高いですが、明るく生き生きと仕事をしています。

主人を亡くして4年になりますが、主人の遺族年金は以前もらっていた10分の1にもなりません。自分の年金とスーパーの給料で、忙しくても常に新しい料理をシミュレーションして、おいしくクオリティーの高い商品をつくり、頑張っています。年金だけでは生活できません。体を使って老後の蓄えは必要です。長く続く秘訣は、スタッフ同士の信頼と尊敬、愛情とオーナーからの信頼だと思います。働いて体を動かしているのもとても健康です。まだまだ80歳くらいまで頑張ります。来年は勤続20年の表彰です。すごく楽しみです。

以上です。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、続きまして、清水さん、お願いいたします。

○清水氏 私は50歳のときに除雪機や草刈り機を製造する現在の会社に入社しました。それ以前に3社での勤務経験があります。大学卒業後、機械メーカーに24年間在籍しましたが、個人的理由で退職しました。2社目は社風が合わず、次のハウスメーカーは倒産したため、現在の会社に入社した次第です。

入社当時は工場勤務でしたが、57歳のときに総務部に異動となり、財務、経理、人事などの業務を責任者として行ってきました。60歳定年時に持病の悪化により、採用業務以外を後任に引き継ぎ、短時間勤務となって10年がたちます。弊社は60歳が定年ですが、希望すれば70歳まで勤務できます。

現在、60歳以上は全社員の24%、34人です。65歳以上は12人で、フルタイム勤務が2人、ほかは短時間勤務です。健康状態や家庭の事情などを考慮して短時間勤務を希望する者や、私みたいに火、水、木の出勤を希望する者もいます。会社が柔軟な勤務形態を容認していることと周りの社員の理解と協力のおかげです。

採用業務を担当していると、様々な人との出会いがあります。弊社は外国人の雇用も行っていますので、仕事を通じてその国を知ることができるのは楽しみです。

高齢でも働き続けるのは健康であるからです。暴飲暴食、喫煙、運動など、若いときから健康に気をつけていくべきと考えます。私は健康である限り、働き続けたいと思っています。

以上です。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

では、続いて、千原さん、お願いいたします。

○千原氏 私は2年前、国立がんセンターで主治医の後藤先生から、脳とリンパに転移のあるステージⅣの肺がんであると診断されました。これを聞いて、もうだめかなと思いましたが、先生からキイトルーダという薬の適応検査の結果が90%以上です、やってみないとわかりませんが、この薬は効けば劇的な効果が期待できると言われました。

私は先生の言葉に期待し、治療を始めました。治療は3週間おきの点滴と脳に3回、サイバーナイフという放射線治療をしました。5カ月後、CT検査の結果、肺がん、リンパ、脳への転移はもう画像では確認できませんでした。今日まで大きな副作用もなく変わらない生活を送れるのは、後藤先生を始めスタッフの方々のおかげです。

がんと宣告されて、これからどれぐらいの医療費がかかるのか不安になりましたが、キイトルーダは保険適用されていたので、国民健康保険と高額療養費制度により、月々5万円程度の負担で治療を受けることができました。日本の医療制度のすばらしさに感謝します。この薬がなければ、今、私は恐らくここにいないと思います。この薬を認可してくださった厚生労働省の方々に感謝するとともに、これからも効果的な治療法に保険適用の認可をしていただけることを切に望みます。

以上です。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、今の3人の皆様方に安倍総理から御質問、御意見などございましたら。

○安倍内閣総理大臣 どうもありがとうございます。

佐藤さんはいろいろな経験を積んでこられたと思いますが、パートとして働いていて2年前からリーダーとして人を動かす立場になったのだらうと思いますけれども、やはりそういう皆さんがやる気を持ってもらうということはとても大切なのだらうなと思いますが、今、パートの方にも厚生年金の適用を拡大しようということを考えています。もちろん、これは会社側にも御本人も負担を持っていただくということを考えているのですが、そういう皆様の士気を高めていかなければいけないリーダーの立場としてはどうなのでしょう。

○佐藤氏 田舎のおばあちゃんばかりだから、みんなすごく元気がいいですね。

○安倍内閣総理大臣 大体同い年ぐらいの。

○佐藤氏 はい。だから、70代が6人、60代が6人、もう50代などはいません。40代も30代もその工場にはいません。社長が経営しているスーパーには若い子とか大学生はたくさんいるけれども、うちの工場にはもう12人から14人、男の社員は2人います。だから、総菜のことには男の社員は疎いので、もうおばあちゃんの私たちが頑張っています。

○安倍内閣総理大臣 仕事をするとということで、やりがいと楽しさがある。

○佐藤氏 はい。楽しいです。私、以前、5年前ぐらいに網膜剥離の手術をして2週間ぐ

らい入院して家で1週間養生していたのですけれども、もう退屈で気が狂いそうでした。もう働いていたほうが活気はあってパワーが出ますね。やはり幾つになっても働いていないと人間は認知症にもなるし、足腰も弱るし、やはり働けるうちは働いたほうが、まず自分のためですね。そう思いました。

○安倍内閣総理大臣 大変、佐藤さんからパワーを感じました。

清水さんはお話を伺っていて、やはり今、佐藤さんからのお話もそうなのですが、政府としては65歳まで就業機会のチャンスを与えるということが法律で決まっていますが、これを70歳まで延ばそうということを考えて検討しているのですが、これはみんながそうではなくて、働きたいと思う人が70歳まで働けるというようにしたいと思っていますが、これについてはどのように思われますか。

○清水氏 やはり何らかの形で社会と結びついていくといいますか、それは人間にとって必要だと思いますし、先ほどもお話ししたのですけれども、やはりそれには健康であることが第一番ですので、常にその健康というものを心にとめて生活していく必要があるのではないかなと思います。

○安倍内閣総理大臣 では、もう清水さんは先ほどお話をされたように大変健康には留意をされながら。

○清水氏 ストレス解消ということで、ゴルフが下手なのですけれども、好きなものですから、それでストレス解消及びちょっとした運動という形でやっています。

○安倍内閣総理大臣 それは私も同じです。

それでは、千原さん、大変な御病気になられて、そのときは高額療養費によって上限が切られるということのお話も伺っていますが、政府としては社会保障制度改革を行っても、やはり保険というのはいざというときのためのものでありますから、最もいざというときは何かといえば、厳しい病気になったときに医療費が高額過ぎてその治療が受けられないということになってはなりませんから、それは収入において上限を決めるという。高額療養費については、我々は、それはしっかりと守っていくということをはっきりと申し上げておきたいと思しますので、どうか御安心をいただきたいと思います。

今後も社会保障制度を考えていく上において、だんだん開発が進んでいくのですが同時に研究費に随分お金がかかるものですから、いわば薬代が高騰するという問題もあります。しかし、そこに投資をするという意欲を失わせてしまいますと医薬品メーカーも投資をしないということになって、なかなかこのあんばいが大変難しいのですが、投資意欲をしっかりと持たせながらもどのように自己負担を抑えていくかということにしっかりと力を入れていきたいと考えています。

今、千原さんは、その自分の病状と合わせながら働き方を選んでおられるということなのでですね。

○千原氏 そうですね。もう少しよくなったら。

○安倍内閣総理大臣 よくなったらそういう状況に合わせて働き方を選びたいということ

なのでですね。そういう多様性を持った働き方を可能にしていきたいと思っています。ありがとうございました。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございました。

それでは、次に4名の方にお話をいただければと思います。

まず、金子さんですね。よろしく申し上げます。

○金子氏 よろしく申し上げます。

神奈川県調剤薬局に勤務しています金子と申します。よろしく申し上げます。

私はかつて同じ時期に、今の勤務先を含む3カ所ほどの薬局に勤務していました。けれども、主たる勤務先がなかったので、国民健康保険に加入していました。その後、子育てもいろいろありまして今の会社の時間数を少しずつ増やし週4で16時間、勤務をしていましたが、それでも主たる勤務先ではなかったので、被用者保険の適用がなされていませんでした。

その後、今の会社のオーナーから、適用拡大ということで労働時間をもう少し増やして20時間にしたら社会保険に加入できるという話を聞き、これはいい条件だなと思ひまして勤務時間を16時間から20時間に変更し、今の勤務先が主たる勤務先となりました。

以前は国民健康保険や国民年金は全額自己負担だったのですが、その主たる勤務先ができたことで有休も発生しましたし、社会保険も厚生年金も半額事業者負担になりまして、私としてはとても助かりました。厚生年金も加入したということで、年金をもらう上で、今後期待していることになります。

ありがとうございました。以上です。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございました。

それでは、続いて、宮下さん、申し上げます。

○宮下氏 宮下と申します。よろしく申し上げます。

私は都内の産婦人科の病院でソーシャルワーカーとして働いています。7年目になりますが、こちらの病院に勤めた当初は、週1回の勤務で始めました。週1回も子どもの保育園の一時保育を使うために、その時間に合わせて10時から4時の勤務で働かせていただきまして、そこから徐々に週3回に増やして今の勤務になっております。

その都度、私の保育園の入れた状況とか、そういうことから勤務体系を私の事情に合わせて変更してもらってきました。今の勤務時間数を増やしたことで業務量も増加し、さらに勤務実態に合わせて今期から社会保険に加入できることを病院側から提案いただきまして、社会保険にも加入できました。

将来的なことや社会保険の福利厚生を考えると、社会保険に加入できることは安心感につながります。子どもが小さいと病気や学校のこと、家のことなどにも追われて、やりくりできるママもたくさんいらっしゃいますけれども、私などはやり切れないほうなので、このような働き方は大変助かりますし、また、ソーシャルワーカーとして病院の仕事だけではなくて様々な福祉的な仕事にかかわりたい希望があるので、ほかの曜日は違う仕事を

したりということが出来ますので、そういった意味でいろいろなものを見られることで見識を深めて、それぞれの仕事に生かせるというようなメリットもあります。

私が働いている病院は、女性と子どもに優しい病院づくりを目指し、多様性を尊重してくれる病院です。そのような理念がある病院だからこそ、保険の加入問題だけではなく働きがいのある職場づくりができる相乗効果が生まれるのかなというように思います。たまたま私はそのような恵まれた職場に入ることができましたけれども、ふだんの御相談をいただいているお母さん方も、働きたくてもなかなか預け先の問題とか御自身の体調の問題とか、あと家の事情などで働けないということもたくさんありますので、今後、このような職場が増えて、より多くの働きたい女性が安心して働けるようになっていくようなことを希望したいと思います。よろしくお願いします。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

続いて平川さん、お願いいたします。

○平川氏 平川佳代子と申します。

私は現在、福岡にありますウェブコンサルティング会社で短時間勤務にて働いております。大学を卒業後、4年ほど正規雇用にて働いておりましたが、結婚のために退職し、その後、主人の転勤、出産、育児と家庭中心の生活を送りながら仕事を続けてまいりました。

子育てが一段落した時点で正規雇用に戻りたいと思っていましたところ、今度は介護にかかわることになり、現在に至っています。人生のほとんどを非正規雇用で働いてきましたが、私は短時間勤務であっても社会保険料を自分で払う制度のほうが自分の将来の生活は安心できると思っています。

私は現在、主人の両親、実の母、子どものいないおばの介護に従事しています。正直申しまして、今の高齢者は非常に恵まれていると感じております。4人とも介護認定を受けておりますが、特に住民税非課税世帯の母やおばは行政の補助が手厚く、日本の社会保障のすばらしさを実感しております。しかし、これだけの手厚い制度を今のまま続けていくというのは難しいだろうなということも感じております。

今回、この座談会に参加することになり、職場の若いお子さんを持つ同僚と話をしましたが、子育て世代はとて自分の老後のことなど考える余裕はなく、国の年金制度も当てにできない、自助努力するしかないという意見が多数でした。若い世代に理解を得るためには、社会保険料の使い道を今以上に透明化して、自分たちも恩恵を受けているという実感を持ってもらうことが必要ではないかと感じております。

以上です。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

続いて吉田さん、お願いいたします。

○吉田氏 愛知県の大橋運輸株式会社で短時間正社員として安全衛生の仕事をしております。

私が専業主婦を経て子育てしながらパートで働く中で直面いたしましたことは、一度出

産のために仕事をやめると再就職の仕事の選択の幅が非常に狭くなるという現実と、パートで得られる収入は低額にもかかわらず、社会保険の適用、非適用問題に悩まされるという現実でした。

私の世代は結婚したら会社をやめざるを得ない時代で、専業主婦として子どもを育て、パートとして低賃金で労働し、50、60になれば、息子、娘夫婦の共働きを支えるための孫の世話や両親の介護を担うことを社会に期待されます。社会を支えるという点ではよいかもしれませんが、働き方の選択肢が欲しいです。

これからの社会では、子育てが一段落しても20年も働けます。学び直しの機会と女性が再就職しやすい社会の仕組みづくりを望みます。そのような社会であれば安心して子育てに専念でき、子育て後の人生に働きがいを持つことができると思います。働きながら子どもを育てるのか、子育てに専念してから再就職をするのか、若い女性たちの人生の選択の幅も広がると思います。

私は職場が人手不足の中で扶養を理由に仕事を控えるわけにはいかず、昨年より扶養を外れました。正直、社会保険料の支払いで働いたほどには手元に残らず、将来の年金額もわずかしか増えないと聞き、老後は不安です。家庭を持つ女性は家族に合わせてライフスタイルの変化を余儀なくされます。その変化に合わせて仕事や労働時間を選択でき、社会保険の適用、非適用に左右されずに働き方を決めることができる社会を望んでおります。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、安倍総理から4人の皆様にお話しただければと思います。

○安倍内閣総理大臣 金子さんは薬剤師として、最初、いろいろな薬局で同時に勤めておられたのですか。

○金子氏 そうですね。

○安倍内閣総理大臣 それを1つにまとめて20時間以上ということの主たる。

○金子氏 1カ所ずつ入ると、どこも短時間で20時間にはならないのです。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 主たるところですね。

○金子氏 主たるところをとにかく持たないと、今の制度は。でも、主たる勤務先になったので20時間で今回こういう恩恵を受けることができましたけれど、今まではそれがなかったので3カ所ばらばらで、しかも20時間には到達しなかったということがあります。

○安倍内閣総理大臣 なるほど。現在、任意ではなくて義務的に適用範囲の拡大をしていくということには政府として検討しているところなのですが、いろいろなことを経験しておられた金子さん、どんな御意見を持っておられるでしょうか。

○金子氏 やはりそれぞれの場所で20時間を切っても働いている方は多いのです。20時間に到達できない方が多いのです。ですから出来たら、いろいろな問題はあるのだと思うのですが、それぞれの場所でも恩恵がとれるような、何分の幾つずつというような形であると私はもっと働きやすくなるのではないかと思います。

特に小さいお子さんを持っている方は、やはり短い時間で午前中だけとか、そういう働

き方しか出来なかったり、ですから短い時間でももう少し何かさらに恩恵があるといいなと思います。

○安倍内閣総理大臣 今日には厚生労働大臣も来てしっかりと聞いていると思いますが、宮下さんはやはりソーシャルワーカーとして病院に勤めておられて、その病院は、まさに任意でこの社会保険について適用範囲の拡大をしておられるということなのですが、病院自体が大変働いている人たち、そういう対応をしていることによってモチベーションが上がっているというのは感じますか。

○宮下氏 モチベーションが上がっているか。済みません、その話をしたことがないので、どうでしょうか。そのことでかはわかりません。

○安倍内閣総理大臣 宮下さん自身はどうですか。先ほど、その病院で働いていることのやりがいという話を伺っていますが、その病院がそういうところに理解があるというところで働いているというのは、ある種、仕事について自分たちの仕事をちゃんと認めているのだなという感じはございますか。

○宮下氏 そうですね。社会保障だけではなくて、やはり病院のソーシャルワーカーでもなかなか産婦人科単科の病院にそういうものを置くということはないので、大きな病院ならそういうことはあるのですけれども、そういった意味でもすごい社会保険のことだけではなく全体的に理解があるのかなというように感じます。

○安倍内閣総理大臣 ありがとうございます。

平川さんからも社会保険の適用範囲の拡大についてのお話もありましたが、それについてはどう思うように考えますか。

○平川氏 やはりそういうように思います。私は短時間勤務なのですがけれども、若いお母さんたちと話していても、130万の壁とよく言いますが、私からすれば130万の崖ではないかというぐらい思っています。

社会保険料、御主人の扶養の範囲から外れてしまうと国民健康保険、国民年金を払うようになりますけれども、変わったからといってメリットがあるわけではないというのが現状ではないか。そうなりますと、かえって御主人の扶養に入っていたほうがメリット、例えば御主人のほうの健康保険のほうの手厚いことをしてくださるとかという現実もありますので、そのあたりをもう一度、崖ではなくなだらかな形で、短時間勤務であっても会社の保険のほうに入れるような仕組みをつくっていただけると、就業調整という形はせずにみんなもっと働いてくれるのではないかと考えております。

○安倍内閣総理大臣 我々も、今までもそうした改革を行ってきたのですが、これからもいわば就業調整によって、これは御本人もそうですけれども、経済にとってもマイナスの面もありますので、よく考えていきたいと思えます。

また、やはり先ほど同僚の皆さんや若い皆さんが、自分たちが介護や年金や医療を受けるときに大丈夫なのだろうかという不安を持っておられるということだと思います。年金について言えば、年金については今、保険料の給付の伸び率と経済の成長の伸び率につい

ては、経済の成長の伸び率が追いついていきますから、ですから、給付に追いついているのです。ですから、経済を成長させないと年金をしっかりと給付できないということでもありますし、実際、年金については450万人、生産年齢人口は減ったのですが、年金を支える厚生年金の加入者は、この安倍政権の間に500万人増えたのです。ですから、所得代替率は改善をしていますから、しっかりと多くの方々が仕事について働いて、そして、厚生年金の加入者が増えていくことによって、人口は減っているのですが、いかにそれを乗り越えていくかということが大切なのだと。

ただ、既に団塊の世代の人たちは年金受給者側に入っていますから、その壁は今、既に乗り越えつつあるのですが、あと運用も相当40兆円以上の利益が出ていますから。ただ、介護と医療については団塊の世代の方々が介護あるいは高齢者医療を必要とするというときには確かにある種のインパクトがありますから、それに備えていかなければいけない。その中で、おっしゃったようにしっかりと様々な見える化を進めていく、効率化を図っていくということが当然大切なのだらうと思いますが、あと、やはりそこで働く方々をどうやって確保していくかということについては、特に介護については外国人人材も活用しながら対応を整えていきたいというように思っています。

あと吉田さんがおっしゃったリカレント教育等の大切さというのは、もう皆さんも忘れていますが、第1次安倍政権は2006年、2007年、1年間だったのですが、そのときに再チャレンジ社会ということをお話したわけなのです。つまり、人生、何度でもいろいろなステージでチャンスがあるということにしなければいけないということで、そこで、リカレント教育を実際にそのころから日本女子大などは始めていただいたのですが、我々もリカレント教育を大変重視をしまして、リカレント教育は年間56万円まで最大7割まで給付をするという仕組みにしましたので、多くの方々に活用していただいて、その人の人生をさらに豊かにしていただくと同時に、当然、それは社会への貢献にもつながっていくのかなと思います。

吉田さん自身はリカレント教育、活用していきたいと思っておられますか。

○吉田氏 そうですね。機会があればしたいと思います。地方に住んでいたり、通うことが難しくてもネットで教育を受けることができるとか、もう少し全国的に一般的なレベルで浸透するとうれしいかなと思います。

○安倍内閣総理大臣 なるほど。今はそういう補助の仕組みもありますので、ぜひ活用していただきたいと思います。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

次に、また4人の方にお話をいただければと思います。

それでは、まず福浪さん、お願いいたします。

○福浪氏 広島県尾道市瀬戸田町にあるレモンケーキを製造し販売する株式会社島ごころで働いている福浪珠江と申します。26歳です。よろしく願いいたします。

3歳と1歳の娘を育てながら、1日6.5時間の週4日、主にレモンケーキの製造、包装を

しながら働いています。1人目が1歳になったころから保育園に預け、働き始めました。そのころは1日7.5時間の週5日、働いていました。2人目を妊娠し、体のことを配慮してもらい、仕事内容を変更したり、妊娠後期には時間を短縮したりしながら、周りの方の理解や協力の中、出産の2週間前まで働くことができました。

産休、育休を島ごころで私が初めて取得し、2人目が約5カ月で職場復帰をしました。復帰してからはフルタイムではなく、私の希望でパートという形で働いています。2人の子育てをしながら働くのは想像以上に大変で、毎日がばたばたです。疲れたときには、ゆっくり寝たいな、ぱっと遊びたいなと思うときもあります。それでも、私が働きたいと思うのは、生活のため、子どもの将来のためというのはもちろんですが、ほかには社会とかかわる、人とかかわれるからだと思います。家ではお母さんでも、外に出ると福浪珠江としてみんなが接してくれています。頑張りを認めてくれる人がいる、それだけで働く意味があるなど私は思っています。

島ごころでは、様々な年齢の人が働いています。同世代の子とたわいもない話をしたり、年上のママたちには子育ての相談をしたり話を聞いてもらったりしながら楽しく頑張っています。会社で社会保険をかけていたことで産休、育休の手当てや給付金をもらえたことはとても助かりました。しかし、実際に支給されるまでは結構な時間がかかりました。会社から給料の支払いがされていないことなど確認をとってからの支給になるので時間がかかるのも仕方のないことなのだろうけれども、もう少し早く支給されるとうれしいです。

今、子育てしながら働いている女性も、これから子育てをしながら働こうと思っている女性にも、もっともっと働きやすい社会になっていくことを願っています。

以上です。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

では、続いて君島さん、お願いいたします。

○君島氏 初めまして。私は埼玉県在住の君島と申します。本日はよろしく願いいたします。

私は現在、浅草にある動物カフェで契約社員として在籍しております。しかし、事業縮小に伴い、11月いっぱいで退職することを余儀なくされ、年内での正社員での就職を目指して、ただいま就職活動中です。

私は実家暮らしで両親も働いているので、給与や社会保険などの条件よりもやりたいことを仕事として選択することができました。社会保障制度に対するの関心も正直あまりなく、自分自身が将来受けるであろう社会保障に対しても実感がないというのが正直な気持ちです。現在の仕事につく際も、社会保険が適用されているかいないかなど全く考えずに仕事につきました。私の結局やりたいと思い選んだ仕事は、社会保険が適用されない非正規雇用での仕事でした。社会保険に加入しない場合は自分で国民健康保険に加入することなど、母から助言され初めて知り、現在は国民年金、国民健康保険料を自分で納付しております。

必ずしもやりたい仕事を正規社員として雇用してもらえとは限らないなと思います。ただ、そうなると、社会保険に自分で加入する必要が生じます。自発的に納付しなければいけないのですが、一度手にした賃金の中から社会保険料を支払うというのはかなり大きな支出であり、収入が少ない月などは保険料の負担の大きさを実感しました。仮に自分がひとり暮らしで非正規雇用だったらその負担はさらに重く、社会保険料を支払わないという危険性も起こり得ると思います。社会保険料を支払わないことによるリスクは、今はあまり実感することはできませんが、将来のことを考えるとおろそかにできないなと思いました。

働き方も多様化している今、正規雇用と非正規雇用で隔てる必要があるのか。雇用主側の事情もあるかとは思っているので大企業と零細企業がなかなか同じ条件になるのは難しいかとは思いますが、みんなが社会保険料を気持ちよく納め、将来安心して社会保障を受けられる社会になればいいなと思います。私自身、元気なときは一生懸命働きたいです。そして、老後は年金だけで生活していけるというような理想的な将来を望んでおります。

以上です。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

続いて、門田さん、お願いします。

○門田氏 松山大学の門田といいます。本日はよろしくお願いします。

私は、愛媛県松山市に住んでおり、愛ある地元の問題として、市街にはシャッター街の多い箇所があったり、公園があるのに休日は誰一人、子どもが遊んでいないなど、少子高齢化や過疎化が進んでいるところが見受けられます。私はそういった地元の問題を是正したいと感じており、大学で地域活性化に関する取り組みや研究などを行っています。

また、将来の不安の一つとして、今の若者は年金の保険料が今の祖父母のようにもらえないということです。そういった状況に備え、現在ではiDeCoやつみたてNISAの私的年金が注目を浴びています。後々、その私的年金の拡充が行われると思いますが、その際にもっと世の中の人が私的年金を広く利用できる社会になればいいなと思っております。

加えて、老後のための自己資産形成をするだけでなく、投資先が地元企業の産業や事業の支援に向けば地域の様々な問題を解消することも可能であると私は考えています。現在は、また働き方改革の関連法により、問題視されていた残業などを是正する法が施行されていますが、働く人はそれをどのように感じているのかが疑問です。仕事とプライベートのどちらを重視するかは働く人によって違いますし、業務の効率性、適切な休憩時間などは人それぞれです。最近では、決められた時間帯で働くのではなく、自分で決めた時間帯で働ける労働形態が話題となっています。私はそれがもっと普及していけばいいなと感じますし、働き方は国や会社ではなく自分で決めるものだと感じています。

以上です。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

最後になりましたが、市川さん、よろしくお願いします。

○市川氏 埼玉県在住のN高3年の市川綾音です。よろしくお願いします。

私は、今年から通信制のN高に転校しました。以前は大学附属の高校に通っていました。転校することはかなり悩みましたが、海外大学に進み海外で働きたいという自分の夢を実現するため、決断しました。周囲からはネガティブな言葉は受けませんでした。友達などからはどうしてと驚かれる声がありました。

N高では単位取得授業のほか、中国語など興味に応じて様々な選択型プログラムをネットで受講しています。ほかにもオックスフォード大学のプログラムや職業体験にも参加しました。先日はN高を代表してトークショーに登壇したりと大変貴重な体験をしています。

職業体験に参加した際、とても心に響く言葉をいただきました。それは、自分の人生を決め歩いていくのは自分であって、その場、そのとき、自分がやりたいことをやるのが一番。それを周りの人がどう思おうと、周りの人から何を言われようと、人は人。自分が正しいと思えばそれを貫けばいいという言葉でした。自分のやりたいことをやろうと決め、転校してきましたが、自分が考えていたことは正しかったのだと勇気をもらいました。

私は、高校生や大学生が自分の学びについて、自分の考えをしっかりと持てるようにする機会が重要だと思います。さらに、私のように自分のやりたいことを選び、自分を貫いている高校生がいるということを知ってもらえる機会があればよいと考えています。

社会保障に関してですが、例えば年金についてはまだ話題になることもなく、身近なものではありません。そのため、そもそも自分が年金について考える機会もありません。しかし、明るい未来を描くには、学生でも年金や生きていくために必要な資産について考えを深める機会が必要だと思います。また、現在の制度が今後どのように変わっていくのか、大人の皆さんがどう考えているのかも知る機会があればよいと考えています。

ありがとうございます。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、安倍総理から御発言をお願いします。

○安倍内閣総理大臣 どうもありがとうございました。

福浪さんは1歳、3歳のお母さんとして子育てをしながら仕事をしておられるということだったと思いますが、やはりお子さんを育てながら仕事をしていく上で一番何が大変ですか。

○福浪氏 急に仕事を休まないといけないというのが、職場の方に迷惑をかけるなというのもあるし、でも、やはり子育てが一番、子どもが一番だから、子どものことをしっかり見てあげたいしという、仕事も大事だし、でも、子どもが一番だしというところが一番悩みになっています。

○安倍内閣総理大臣 上のお子さんは3歳ですね。

○福浪氏 はい。

○安倍内閣総理大臣 ですから、今年の10月から幼児教育・保育の無償化になりますけれども、どうでしょうか。

○福浪氏 まだ年少さんではないので。

○安倍内閣総理大臣 では、もうじきということですか。

○福浪氏 来年の4月からです。

○安倍内閣総理大臣 それと社会保険の適用範囲なのですが、福浪さんのように短時間でも、先ほども少しお話をさせていただいたのですが、適用範囲を拡大していこうと思っておりますが、それについてはどのように思っておられますか。

○福浪氏 もうとてもありがたいです。今は主人の扶養に入って働いているので、もし3人目を妊娠ということになると、次は産休、育休という手当とかは出ないと思うので、会社に籍は残してくれているけれども、やはり金銭的にはとてもしんどくなると思うので、すごくありがたいことだなと思います。よろしくお願いします。

○安倍内閣総理大臣 あと先ほど給付金を受給するまでに時間がかかるというお話だったのですが、企業の御協力をいただければ支給が早くなるという仕組みもあるのですが、十分に広報がなされていないところもありますので、もっと広報をしっかりとして多くの企業にそういう対応をしてもらいたいと思います。

それでは、君島さんなのですが、君島さんとしては、非正規でも正規でも、社会保険等も含めて同じような扱いを望んでおられるわけですね。

○君島氏 そうです。

○安倍内閣総理大臣 安倍政権としては同一労働同一賃金という方針を立てまして、これは賃金についてであります。非正規、正規の壁をなくしつつ、そして、同じような条件であれば社会保険の適用も進めていくという政策を今、もう既に進めている、立法を含めて進めているのですが、年金については今、国民年金というようにお話をいただきましたね。もちろん、保険料の問題もあるのですが、厚生年金の適用範囲が拡大になるのであれば厚生年金のほうがいいなと思われませんか。

○君島氏 そうですね。そう思います。

○安倍内閣総理大臣 これは負担の問題もあって、負担も増えていくという収入にもよるのですが、ただ、年金の場合は基本的には、厚生年金であれば半分、雇用主が負担をします。国民年金であっても国が半分払っていますから、これは必ずもらう側になれば、ある年齢までいけば絶対本人にとってはプラスなのだろうと、そのためのセーフティーネットなのだろうと思いますが、もっと多くの若い人たちに知っていただくように私たちも努力をしていかなければいけないなと思いました。ありがとうございました。

○君島氏 ありがとうございます。

○安倍内閣総理大臣 それでは、門田さん、今、学生ですね。

○門田氏 学生です。

○安倍内閣総理大臣 まだ学生でありながら、このNISAとかiDeCoというのに詳しいので大変驚いたのですが、NISAについては2014年にスタートし、ジュニアについては2016年、そして、iDeCoについては2017年にスタートしました。やはり大体、門田さんの同年代の方は

こういう知識も持っておられるのですか。

○門田氏 そうですね。一応大学の研究で、経済学部なのですけれども、経済だからみんな知っているだろうと思って認知調査をしたのですけれども、300人ぐらい学部でいて、その中の6割の人がiDeCoやつみたてNISAについて知らないのです。なので、まず、その認知も進めていかないといけないなという感じはあります。

○安倍内閣総理大臣 また、先ほど門田さんから自分の働きたい形態で自由に働けるように、時間も含めてという話がありました。まさに私たちが今、進めようとしている働き方改革は、多様性のある社会をつくっていく上には、ニーズも多様化していますから、それぞれのニーズに応じた働き方あるいはそれぞれのステージで違うと思うのです。例えば結婚したとき、子どもが生まれたとき、働き方をこうしたい。あるいは介護があるから。あるいはまた自分の能力を生かして2つぐらいの会社、同時に働きたいよという人もいるでしょうし、そういう働き方を私たちが目指していきたいと思っています。門田さんみたいな若い方からそういう意見が出ることは大変うれしく思います。

○門田氏 ありがとうございます。

○安倍内閣総理大臣 あと市川さん、昔と今は通信制の高校というのは随分イメージが変わったのだなと思いました。ネットを活用して世界ともつながってしまうということなのですね。ですから、世界の様々な講座もとれるということなのですか。

○市川氏 はい。学校で受けることができます。

○安倍内閣総理大臣 そうすると、そういう変化に対して、いろいろと就職や仕事をしていく上における評価はちゃんとされているのですか。

○市川氏 ネット授業ということですか。

○安倍内閣総理大臣 はい。

○市川氏 いや、まだそこまで認知というか、やはり偏見を持たれると思うので、もう少し広がったらいいなと思います。

○安倍内閣総理大臣 今、そういう偏見もあるかもしれない中でそちらに飛び込んでいくのはなかなか勇気があって、そういう人が世の中に変えてきますから頑張ってもらいたいと思います。

○市川氏 ありがとうございます。

○安倍内閣総理大臣 先ほども話がありましたが、若い皆さんがまだ年金というのは実感が無いのだと思いますが、興味がないと同時に大丈夫なのだろうか、親の世代の年金と自分の世代の年金が違っている。確かにかつては人口ピラミッドが今と人口構成が違ったのですが、同時に考え方としては、例えば私の親の世代などというのは、もっと苦勞した世代でもあるのです。社会的な基盤は今よりも全然厳しかったわけですし、戦後のすぐ厳しい時期、何もない時期を乗り越えてきたという中で頑張ってきたということもあるのだろうと思うのですが、今、こういう人口構成の中で、何とか所得代替率を現役世代の5割をモデル世代で確保するという設計を何とか維持しているのですが、その維持をしてい

く上においても、先ほども申し上げましたようにしっかりと日本の経済を今、成長していますから、年金の給付に追いついていますが、だんだん人口が減っていきますからプラスに作用するのですが、これに対してどう対応していくかという対策をたくさんやっているのです。

人口が減っていく中であっても一人一人の生産性が上がっていけば、いわば成長を確保することができます。かつて我々、政権をとる前も成長しなくてもいいのではないかという人たちがいたのですが、成長していかなければ人口構成が変わっていく社会保障を維持できませんから、社会保障を維持するためにも成長していく、そのためにも、まさに一億総活躍社会で、いろいろな方々がその能力を生かせる社会をつくっていくことによって、初めてそれは可能になるのだなというように思います。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、お二人の閣僚に御同席いただいておりますので、コメントをいただければと思います。

まず、加藤厚生労働大臣、お願いをいたします。1分程度でお願いいたします。

○加藤厚生労働大臣 ありがとうございます。

いつまでも働きたい、あるいは子育てしながらもいろいろな状況の中でも働ける環境ということで、我々、これまでも働き方改革をし、さらには65歳以上になっても働けるという仕組みをつくっていきたいと思いますし、あわせて、それに応じた形での医療や年金制度をどうつくっていくのか、今、適用拡大の話もありました。しっかり承らせていただきたいと思います。

さらに、今日、お話を聞いていて、年金や医療、先ほどiDeCoも含めて、なかなかそういう制度が十分知れ渡っていない。そういった意味では、若い人に対する教育あるいは周知、これをしっかりと図っていかなければいけないと思いますし、また、キイトルーダの話がありましたけれども、革新的な医療をいかに早くするのか、その中で医療財政をどう守っていくのか、なかなかバランスは難しいのですが、そうした意味で皆さんが安心していただけるようにさらに努力をしていきたいと思っております。

今日はありがとうございます。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 では、梶山大臣、お願いいたします。

○梶山経済産業大臣 今日は多くの世代の方々にいろいろなお話を聞かせていただきまして、ありがとうございます。

人生の中でいろいろな事情が発生するわけです。自分に関する事情、家族に関する事情。それは結婚であったり、子育てであったり、また病気であったり、あとは退職であったりということですが、そういったときに柔軟性のある職場をどうやって見つけるか。また、そういう柔軟性のある職場を増やしていくということ。さらにまた、そのときの社会保障ということも含めて企業側がこれから考えなければならないこと、しっかりと行政に生かしてまいりたいと思います。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、最後に、安倍総理から御発言いただければと思います。

○安倍内閣総理大臣 今日本当、いろいろな意見を伺うことができ、大変有意義でありました。我々も、どのような議論をしていくかということをしかりとオープンに多くの国民の皆さんに知っていただきながら進めていきたいと思ひますし、こうした形で皆さんから大変有意義な御意見を伺ったことは、この政策をつくっていく上において大変意味があったと思ひておりますし、皆さんのこうした御意見をしかりと政策をつくっていく上において生かさせていただきたいと思ひます。

年金一つとっても、まさに国民年金も厚生年金もあれば、そして、国民年金基金もあれば、先ほどお話もいただきましたが、私的な確定拠出型年金みたいなものもござひます。そうした様々なメニューを多くの方々に知っていただきながらということも大切なのかな。だから、政府がやるべきことはたくさんあるのだろうと思ひますし、リカレント教育についても活用していただくためにも、そうしたメニューをもっともっとしかりとアピールもしてきたいと思ひます。

先ほど申し上げましたように、みんなが活躍できる社会をつくることができるかどうか日本に未来はかかっていると思ひますので、しかりと責任を果たしてきたいと思ひます。どうもありがとうございます。

○西村全世代型社会保障改革担当大臣 どうもありがとうございます。

それでは、以上をもちまして社会保障改革に關します安倍総理との意見交換会を終わりたいと思ひます。遠いところ、本当にありがとうございます。